



園長便り ひ が し

令和7年10月1日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

秋まつり

「秋まつり」が行われました。みんなで踊る「お絵描き音頭」も「野菜音頭」もとても元気があり、お祭りの雰囲気が高まりました。その後、かき氷コーナー、虫探しコーナー、魚釣りコーナー、稲刈りコーナーに分かれてたくさん収穫をしました。先生方がのべ何十時間もかけて作成したかき氷も虫も魚も稲もあつという間に収穫されました。子どもたちはとっても楽しそうでした。縦割りの活動で年長さんや年中さんが年少さんやつぼみ組さんの子をしっかりお世話してくれていました。とてもいい光景でした。



読書のすすめ

各教室で読み聞かせをしたり、紙芝居を読んであげたりとほのぼのする光景が目に入ります。家庭でも秋の夜長にゆっくり本を読んであげてほしいなあとつくづく思います。

さて、なぜ本を読むとよいのでしょうか？なぜ小さい時から読み聞かせをするといいのでしょうか？私は、読書の話をするときには次のような話をします。

本を読むと算数ができるようになるお話をします。ここに永遠のベストセラー松谷みよ子さんの「いない いない ばあ」の絵本があります。1ページから「いないいないばあ」と2ページに移ると、2歳ぐらいの子はあまり反応しません。3歳以上になると反応します。それは、頭の中でくまさんの手が動いているからなのです。読書の力はずばり想像力なのです。算数の問題で



すずめが5羽止まっています。4羽飛んできて、しばらくして3羽飛んでいきました。今何羽止まっているでしょう。

この問題を解くには、まず子どもの頭のスクリーンに5羽止まっている場面を想像することから始まります。そして4羽飛んできて3羽飛んでいく場面を自分で想像することにより、問題の意味が分かるということです。

このイメージがわからないと「増えたから足し算」「減ったから引き算」と何度も教えないといけなくなります。テレビやゲームは一方通行ですが、読書は読んで頭のスクリーンに想像しなければならないので脳の使う場所が違うのです。たくさん本を読んで想像力をつけてほしいですね。